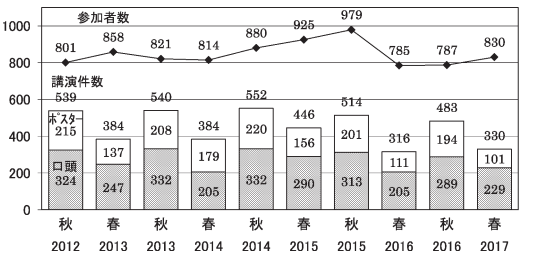
2017年度春季大会の報告

2017年度春季大会は，国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町3-1）を会場として2017年５月25日（木）～28日（日）に行われた．参加者数（前納登録者と当日受付者の合計）は830名であった（第１図）．

２日目午後には，大ホールにおいて総会が開かれ，猪上　淳氏，渡邉真吾氏および河谷芳雄氏に日本気象学会賞が，大野木和敏氏に藤原賞が，石原正仁氏と明星電気（株）高層気象グループに岸保・立平賞がそれぞれ授与され，総会に続いて受賞者による記念講演が行われた．３日目午後には，同会場においてシンポジウム「最新の気象学が描き出す多彩な大気海洋結合現象」が開催され，５件の基調講演と参加者による討論が行われた．４日目には，気象学に興味を持つ高校生・中学生を対象としたジュニアセッションが開催された．ジュニアセッションは今大会で３度目の開催であり，前年度を大幅に上回る計31件のポスター発表それぞれで熱心な議論が繰り広げられた．

大会期間中は，ポスターまたは口頭発表による一般講演，並びに特定のテーマに基づいてコンビーナーが編成する７件の専門分科会が行われた．一般講演の発表件数は258件（内訳はポスターが101件，口頭発表が157件），専門分科会は72件で計330件であった．

会期中およびその前日には，教育と普及委員会による公開気象講演会「「大雨災害」に備える」を含め，個別のテーマによる５件の講演会や研究連絡会も開かれた．



第１図　過去５年間の大会参加者数と講演件数（口頭，ポスター）．

今大会では，無料試行版という位置づけで，製本版の予稿集に，電子版予稿集を収録したCDを付録した．

今大会の開催に当り，20の企業・団体からご出展・リクルートブース開設・ご協賛・ご協力を頂きました．厚く御礼申し上げます．

また，東京大学先端科学技術研究センター，東京大学大学院理学系研究科，国立極地研究所，首都大学東京および周辺機関の皆様に大会実行委員会として大会準備・運営にご尽力頂くとともに，ボランティアとして大会運営にご協力頂きました．ここに深く感謝の意を表します．

2017年６月　講演企画委員会